

平成30年度市民討議会提言内容の進捗状況一覧表 (令和元年度末現在)

討議テーマ1	介護について考える「きっかけ」作りのために、どんな仕組みが必要ですか？		
提言	介護に触れる機会の創出や介護ポイント制度の導入を求めます。		
詳細	進捗状況	関係部署	
1) 介護に触れる機会の創出を求めます。 介護を学び、体験するために、多治見まつりで介護ブースを出したり、学校で介護教育を行うことを求めます。また、コンビニなど人の集まる場所で、介護制度の情報に触れることが出来る工夫を求めます。	中学校、高校において、認知症サポーター養成講座を開催しました。(令和元年度(2019)6校19クラス587人) そのほか、小中学校において多治見社会福祉協議会が福祉学習を行っており、福祉施設の勉強や高齢者、障がい者の疑似体験などしています。また、「ふれあい福祉まつり」を開催し、パラリンピック疑似体験や福祉体験コーナーを設置し、介護体験などの事業を行っています。 介護制度の情報に触れる機会については、65歳介護保険説明会(毎月第4火曜日)において、その月に65歳の誕生日を迎える方に対し、介護保険利用の概要や保険料などの説明を行っています。また、一般市民向けには、介護保険についての情報提供を見守り情報便(包括支援センター発行)の回覧(年3回)や、地域でのサロン、地域社協の講座やおとどけセミナー等で、行っております。さらに、市とコンビニエンスストアとの包括連携協定に伴い、介護保険情報の設置について、検討していたように申し入れをしました。	高齡福祉課(終了)	
2) 介護ポイント制度の導入を求めます。 介護に関わるボランティア活動に参加することで取得でき、介護を受ける時に利用したり、介護用品に交換できる介護ポイント制度の導入を求めます。	市内の地域社協等では、さまざまな生活支援やサロンなどを高齢者の方がボランティアとなって、事業を実施しております。このような高齢者になってもボランティア等で活躍することが、介護予防に繋がっている認識しております。そのため、介護ボランティアポイント制度は、高齢者の介護予防や地域のつながりなどに資すると考えられるため、他市の導入事例を参考にし研究していく予定です。	高齡福祉課(終了)	

討議テーマ2	元気な高齢者になるために、どんな仕組みが必要ですか？		
提言	健康マップの作成や食を学び、体験できる機会の創出を求めます。		
詳細	進捗状況	関係部署	
1) 健康マップの作成を求めます。 既存の「ウォーキングコース100選マップ」に加え、車椅子や杖でも参加できるコースの記載や、バリアフリーのトイレが表示されたマップの作成を求めます。	バリアフリーのトイレ表示については、平成30年度作成のウォーキングマップにて対応します。車椅子や杖などの方については、既存の「ウォーキングコース100選マップ」に、安全かつ好きな距離を好きな速さで歩くことができる「フィットネスコース」を掲載していますので、個人の状況に応じてご利用いただければと思います。	保健センター(終了)	
2) 食を学び、体験できる機会の創出を求めます。 生活習慣病などを予防するために、子どもから高齢者までが一緒に健康と食を学び、体験できる機会の創出を求めます。	地域の公民館まつりや地域フェスティバル等で、野菜や塩分について学ぶ機会を設け、野菜計量体験や家庭のみそ汁の塩分チェック、減塩みそ汁の試飲を行います。	保健センター(終了)	

討議テーマ3	高齢者が子どもを持つ親を支援できるようにするために、どんな仕組みが必要ですか？		
提言	子どもを持つ親の悩みとそれを解決できる高齢者をつなぐ仕組みを求めます。		
詳細		進捗状況	関係部署
1) 子どもを持つ親の悩みとそれを解決できる高齢者をつなぐ仕組みを求めます。 ①子育てで悩みや困りごとを抱えるすべての人が、気軽に相談できる機会の創出を求めます。 ②町内会や民生委員への働きかけ、回覧板・チラシの配布などで支援できる高齢者と親をつなぐ仕組みを求めます。		①子育て支援コーディネーターを配置し、相談者と支援団体等をつなぐお手伝いをしています。課の窓口には各種相談員を配置して随時相談をお受けしており、窓口に行けない人・行きにくい人など相談者の状況に応じて、電話での相談や家庭訪問も行っています。また、市内全13校区に設置している児童館・児童センターでは月に1度子育てにかかる相談日を設けており、相談日以外でも随時相談をお受けすることや、保育園、幼稚園、親子ひろば（駅北、笠原）、地域子育て支援センター（共栄、池田、笠原）でも、随時相談をお受けしています。 今後も、子育てで悩みや困りごとを抱える方が孤立しないよう地域の方や多くの関係者と連携し、気軽に相談できる体制を心がけます。	子ども支援課（終了）
		②児童館で実施している地域交流事業において、高齢者をはじめとする地域の方とともに事業を行っており、高齢者の方とつながる仕組みができています。また、児童館の運営には民生委員・主任児童委員や保育園、小・中学校の関係者、区長などが参加しており、回覧版・チラシの配布などの活用を含め、地域の状況に応じた連携が図られています。	子ども支援課（終了）
討議テーマ4	高齢者の知見と経験を次の世代に引き継ぐために、どんな仕組みが必要ですか？		
提言	必要としている人とされている人とをマッチングする仕組みを求めます。		
詳細		進捗状況	関係部署
1) 必要としている人とされている人とをマッチングする仕組みを求めます。 知識や技術を持っている高齢者と、それを必要とする個人や企業とつなぐこと、経験や歴史を講演会やカルチャースクールなどで多治見市の財産として残すことが必要です。そのために、65歳以上にアンケートを取り、技術や体験などを集約してマッチングする仕組みを求めます。		平成30年より第1層（市全域を対象）の生活支援コーディネーターを1名配置し、生活支援などにおける社会資源の把握や情報提供を行っています。併せて、より身近な資源の把握などを行う第2層（各小学校圏域）の協議体は現在7ヶ所配置し、情報交換を行っております。しかしながら、この第2層に生活支援コーディネーターは現在配置されておりませんが、今後は地域でのマッチングするためにも、コーディネーターの設置を進めているところです。 一方で、現在は知識や技術を持った高齢者の情報を集約するシステムはなく、高齢者の能力を有効に活用するために情報をマッチングする仕組みも今後の新たな課題と捉えています。高齢者の情報集約とマッチングについて、シルバー人材センター等関係機関の活用も含めて研究していきたいと考えます。	高齢福祉課（終了）